



矯正にかかわって二十三年が経過したが最近特に感じることもある。はやりのしように顔の実態だ。その正体は上顎の幅の成長不足。上顎はV字形の歯列になりスペース不足による歯のガタツキ



や上顎前突を引き起こし、下顎も歯が内側へ傾斜しスペース不足となる。

そこで上顎骨の幅を広げる治療を行うのだが、上顎骨の発育は頭頭蓋(神経系)に属しており、その成長は十二歳で終わってしまう。抜歯しないで上顎前突(出っ歯)を治療するには十二歳で効果が出ていなければいけないので、九〜十歳(小学三、四年)には

うちに柔らかい骨や歯

□□④□□

治療を始めたい。

また下顎骨の発育は身体(身長)と同じで一般系に属するため、下顎前突(受け口)は成長期前に上下前歯の関係を改善しておくことが重要。遺伝性の強い手術ケース以外の、ほとんどの症例は早くからコントロールすれば問題なく改善することが多い。顎切り手術を避けるため、前歯が上下で四本ずつ萌出する七歳(小学一、二年)ごろの受診を勧めている。

十二歳臼歯の萌出後だと抜歯ケースとなる確率が高くなり、反対に早くからの受診は、抜歯しなくて済むケースも多くなるが通院期間は長くなる。どちらを選択するかは患者さんを選択権がある。私は歯科医師なので、歯はなるべく抜きたくないといつも思っている。

あまり早い時期にブラケットをつけることはしたくないが、歯や骨が柔らかいうちに矯正を終えるのが良い。痛みが少なく矯正後のかみ合わせのトラブルも少ない。歯はかむことで減り、かみ合わせを保っている。